

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分  
 【発行日】令和 4 年 6 月 27 日(2022.6.27)

【公開番号】特開 2021-136844(P2021-136844A)  
 【公開日】令和 3 年 9 月 13 日(2021.9.13)  
 【年通号数】公開・登録公報 2021-043  
 【出願番号】特願 2020-33921(P2020-33921)  
 【国際特許分類】

*H 0 2 P 2 5 / 1 8 ( 2 0 0 6 . 0 1 )*

*H 0 2 K 4 1 / 0 3 ( 2 0 0 6 . 0 1 )*

*H 0 2 P 2 5 / 0 6 4 ( 2 0 1 6 . 0 1 )*

【 F I 】

H 0 2 P 2 5 / 1 8

H 0 2 K 4 1 / 0 3 B

H 0 2 P 2 5 / 0 6 4

10

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 6 月 17 日(2022.6.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

【図 1】実施例 1 の巻線切替装置の斜視図である。

【図 2】実施例 1 の巻線切替装置の断面図である。

【図 3】実施例 1 の可動切片の動作を示す図である。

【図 4】実施例 1 の巻線切替装置の接続例を示す図である。

【図 5】実施例 1 の固定子と可動子の当接部分を示す断面図である。

【図 6】実施例 1 の可動切片として形成途中の板状部材を示す図である。

【図 7】図 6 に示す板状部材が可動切片として取り付けのために丸められた状態を示す図である。

【図 8】図 7 に示す可動切片を軸方向から見た模式図である。

【図 9】実施例 1 の巻線切替装置の断面を示す模式図である。

【図 10】実施例 2 の巻線切替装置の断面図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 1 】

前述したように、可動軸 2 を図示右側から押す力が加わると、可動軸 2 が左側へ移動して可動子 3 6 を左側に押し、可動子 3 1 が固定子 1 と当接する。可動子 3 1 と固定子 1 が当接する箇所は樹脂材料で形成するとよく、特に軟質の樹脂材料で形成するとよい。例えば、固定子 1 と可動子 3 1 が当接する箇所に軟質の樹脂片を取り付けるとよい。同様に、可動子 3 6 と固定子 1 が当接する箇所は樹脂材料で形成するとよく、特に軟質の樹脂材料で形成するとよい。固定子 1 の一部を形成する軟質の樹脂材料が衝撃緩和材となり、固定子 1 と可動子 3 1、3 6 の接触時に発生する音を小さくでき、巻線切替装置の動作音を低減できる。

20

30

40

50